

ジョウビタキ（ヒタキ科） 全長14センチ

厳冬の1月12日、北檜岡公民館の敷地に冬鳥のジョウビタキが現れた。

暦の上では、1月5日から2月3日の立春までが1年で一番寒い季節と言われているが、小さな体で健気に飛び回っている。

桜の枝先にとまったオレンジ色の体は鮮やかで、白黒の世界に強烈なアクセントを放っていた。真冬になって、ふっくらと可愛く見えます。これは空気を羽毛の中に取り込み、膨らませているのです。空気は熱を伝えにくく、空気を取り込むことで、体温を逃がさない工夫をしているのです。



時折り差し込む日差しに、つばらな瞳が輝いた。

もふもふのジョウビタキ（オス）が公民館の敷地内で見つかったから1週間が経過した。

気温が零下になっても、風がなく雪が止んだところに日差しが差し込むような天気になると、どこからともなく現れます。

敷地の隣には神社の立木も多く、人通りも少ないことから安心して過ごせる環境でしょう。いつまで滞在してくれるか分かりませんが、姿が見えなくなるまで通うことにした。



振り向いて一気に飛び立った。



桜の木がお気に入りの休憩所。



まん丸と膨れ上がった体が、なんとも可愛い。



真冬にはオレンジ色が引き立ちます。